

# グループホーム・越前(認知症対応型共同生活介護事業所)

## 1. 評価結果概要表

作成日 19年10月9日

### 【評価実施概要】

事業所番号	1872000284
法人名	有限会社 グループホーム福井
事業所名	グループホーム・越前
所在地	福井県丹生郡越前町米ノ第56号17番地1 (電話) 0778-39-1702

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成19年8月10日	評価確定日	平成19年10月9日

【情報提供票より】 (19年8月3日 事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	8人、非常勤 3人、常勤換算 人

### (2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	1 ~	2 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円	
敷金	有 ( 円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	250 円
	夕食	450 円	おやつ	150 円
	または1日当たり			円

### (4)利用者の概要 (8月3日 現在)

利用者数	6 名	男性	4 名	女性	2 名
要介護1		要介護2			
要介護3		要介護4		4	
要介護5	1	要支援2		1	
年齢	平均 86 歳	最低	64 歳	最高	96 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	両林医院、公立丹南病院、岸デンタルクリニック
---------	------------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>ホームがある地域は、昔から漁業が盛んなところで漁期には賑わいを見せる観光地である。民宿を改修したホームの建物は、国道から一本入った筋の小高い段丘を背にしたそのふもとに位置しており、玄関までは十数段の細い階段があって手すりが付けられている。建物は3階建てで、1階に居室が3つと居間兼食堂、浴場等の共有スペース、2階に居室が5つ(1室は2人部屋)あり、2階へ上がる階段には昇降機が設置されている。代表者である管理者は、ホームの立上げから精力的に運営に当たり、入居者のケアにおいても職員の先頭に立って模範を示してきている。職員の入居者への対応は一人ひとりのペースを尊重し、思いや望みに配慮した無理強いをしない支援が行われており、入居者は穏やかな表情で過ごされていた。また、看護師が3名配置されていることから、家族や入居者の意向を取り入れて終末期のケアが実践されている。職員の研修については、管理者の推奨もあって職員の資格取得についての意欲は高く、今後資格取得や内外の研修が重ねられより質の高いケアが実践されていくことが期待できる。また、職員間の意見・情報の共有や他事業所との交流を通じた情報交換を積極的に行い、広い視野をもって入居者本位のサービスに取り組みられることを期待できる。なお、「契約書」、「重要事項説明書」、「パンフレット」に一部「運営規程」と異なる記載(敷金の有無や利用定員、職員の数等)が見受けられるので、早急に見直すことが求められる。</p>
---

### 【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は評価の実施について、一部職員に委任しており、ホーム全体としての取り組みは行われていない。改善課題についても把握や取り組みが不十分であるため、再度評価に対する真摯な取り組みを要望したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価に対しても職員が全員で取り組む体制がとられていない。管理者を中心に、今後積極的な取り組みを期待したい。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)</p> <p>2か月ごとに運営推進会議が地区の集会所で開催されており、ホームの現状報告や課題が話し合われて、委員から助言や意見を得ている。協議内容としては、事故等の緊急時や急変時の対応についてのマニュアルの見直しや、「地域密着型」について理解を得るための話し合いが行われている。また、ホームの課題を提起することで地区の班長や自主防災組織との連携の足がかりにもなっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)</p> <p>面会時にコミュニケーションを持ったり、毎月個人の「生活便り」を各家族に送付する取り組みが行われている。また、家族からの苦情や意見は直接口頭で伝えられ、話し合いが行われている。その他、運営推進会議の開催案内を全家族に送り、運営に参加する機会も設けられている。しかし、ホーム全体の雰囲気や暮らしぶりが見える「ホーム便り」は発行されていないので、さらに家族の安心と信頼を得るため定期的に発行することを期待したい。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の自治会に加入し、班会議に出席している。日常の散歩や買い物で挨拶や言葉かけを行っているほか、地区の行事にも参加している。地域住民が野菜を持参してきたり、高齢者が訪ねてくるといった交流もある。今後は防災対策として地域の理解と協力を要請する取り組みを行うことが、運営推進会議で話し合われており、さらなる連携が期待できる。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		<b>理念に基づく運営 1 理念の共有</b>			
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念である「笑顔、真心、感謝」の言葉がホーム内の各所に目に付くよう墨書で掲示されている。		グループホームが地域密着型サービスに位置づけられたことを踏まえ、地域の中でその人らしく生活することの意義を再認識するとともに、理念の中にもその意義が取り入れられることを望みたい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者はミーティングにおいて理念について話しており、職員も理解している。しかし、具体的にサービスに活かされる取り組みを職員間で話し合ったり、現場での確認は行われていない。		理念がケアの場面で日常的に実践されるよう、ミーティングや日々の関わり合いの中で話し合わせ、職員間で共有されることを期待したい。
		<b>2 地域との支えあい</b>			
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事等の情報を入手し、祭りや花火大会に参加したり、地域住民が野菜を持参してくれるなどの交流が行われている。また、自治会に加入し、会合等にも出席しており、次の班会にはホームのパンフレットを配布する計画がある。		
		<b>3 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事務兼介護職員が他の職員の意見を聞きながら自己評価を行っているが、評価を通じてサービスの見直しにつなげるなどの評価の意義は職員間には浸透していない。また、これまでの評価結果に対する改善への取り組みも消極的である。		管理者が中心になり、職員間で自己評価・外部評価の意義を再認識し、入居者や家族が安心して、その人らしい生活ができる支援体制が確立されるよう、改善への取り組みを期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区区長、町担当者、地域包括支援センター、家族等をメンバーに2か月に1回開催されている。ホームの現状を報告し、その時々課題について質問や意見交換を行い、「地域密着」の意義についても理解を得る話し合いが行われている。		
6	9	市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は設立や入居者の募集、運営等に対し、町担当への相談をきめ細かく行ってきたが、町村合併により町役場（本庁）が距離的にも遠くなり、足が遠のいたと感じている。再度、運営やサービス向上に向けた相談を行い連携を強める取り組みをしていくことを確認する。		
		<b>4 理念を実践するための体制</b>			
7	14	家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時の話し合いや1か月間の個人状況（往診、血圧、生活、行事等の項目）を「生活だより」として各家族に報告しているが、ホーム全体の雰囲気や入居者・職員間の暮らしぶりが見える「ホーム便り」は発行されていない。		ホーム内の暮らしぶりがみえる「ホーム便り」を定期的に発行し、家族の安心と信頼を得る取り組みを期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や苦情は直接口頭で聞き、話し合いを行ってきている。また、運営推進会議の案内は全ての家族に送り、運営に参加する機会を設けている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係で支援が継続されることに配慮し、職員の異動は極力避ける人事が行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		<b>5 人材の育成と支援</b>			
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の採用に際し、試用期間とともに2級ヘルパーの資格を取得させている。また、認知症介護実務者研修に関しても管理者代理が受講しているほか、職員も順次受講させる方針で、職員を育てる体制作りに積極的である。		職員が参加した各種研修の内容が全職員にも報告され、共有されるよう内部研修の充実が望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム連絡協議会の一員として研修に参加しているが、同業者との個別の交流は行われていない。		一般職員も研修会等に参加したり、地域の同業者間の情報交換や相互訪問を積極的に行い、サービスの質の向上につなげる取り組みを期待したい。
		<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> <b>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用に当たっては事前の見学を行い、入居後はカンファレンスを行って入居者の思いを聞きながら馴染めるよう導いている。また、対応が困難な場合は、家族と連携しながら個別の対応を工夫し、入居者の安心を得る支援を行っている。		
		<b>2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者6名のうち男性が4名で日常会話は限られているが、職員は入居者の好むことや仕事の話の聞き役となってコミュニケーションに努めている。		職員は、個々の入居者と喜びを共感できるふれあいや活動を日々の生活の中に取り入れ、共に支え合う関係がなお一層築かれることを期待したい。
		<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> <b>1 一人ひとりの把握</b>			
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報をもとに本人との話し合いを重ね思いを聞き、どのような生活を望んでいるか気持ちの把握に努めている。		
		<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成者は、職員会議の場で入居者家族の意向を踏まえた課題を提案し、意見を聞いて介護計画を決定している。アセスメントにおいては、認知症高齢者ケアマネジメントセンター方式を一部活用している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間は設定されているが、特に変化がないような場合には見直しせず、そのまま継続されている。		日々の個別記録や経過記録をモニタリングすることにより新たな気づきや変化等実情に即した課題が導き出されることから、計画の見直しが定期的に行われることを求めたい。
		<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	3名の看護師を中心に終末期の入居者の看取りを行ったり、通院の支援を行っている。また、他の事業所のデイサービスの利用者を受け入れ、入居者との交流を持つ支援を行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続して受診する支援が行われている。受診には職員が付き添い、バイタル記録や口頭で心身の情報を提供している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者本人や家族の希望によっては終末期をホームで過ごし、馴染みの環境の下で看取る支援が行われている。24時間住診可能な協力医と3名の看護師が職員として配置されており、急変時のマニュアルも整備されている。		入居者や家族が不安なく終末期を迎えられるよう、終末期の介護についての話し合いや学習の機会を持ち、全職員に共有されることが望ましい。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			<b>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</b>		
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入居者に対する言葉がけにおいてプライドを傷つけるような対応は見受けられなかったが、設備面においてトイレの仕切りがカーテンであることや、ベッドに尿漏れシートがむき出しで敷かれているなど、利用者のプライバシーやプライドに差し障るような状況が見られる。		管理者は職員と共に「入居者への尊厳ある対応」について具体的に点検・確認し合っており、意識をもってケアに取り組まれることを求めたい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調に合わせた支援が行われている。調査当日、食事介助においても入居者のペースに合わせて、時間を掛けた支援が行われていた。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者のみで、職員は介助や見守りを行っている。調査当日、「職員と一緒に食べれば、味も分かってもらえる」という入居者の声も聞かれた。		入居者が職員と一緒に買い物、調理、後片付け等の一連の作業をし、一緒に食事をしたり、楽しみややりがい共感できるよう取り組まれることを期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、曜日・時間は決められているが、希望による入浴も柔軟に行われている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の気持ちを尊重しながら、お盆拭きやお絞りたみ、カレンダーの日めくり等役割を担ってもらって支援が行われている。また、短歌を得意とする入居者の作品をパソコンで見栄え良く仕上げたり、喜びにつながる支援を行っている。		趣味や特技のある入居者には、作品の発表の場をもって創作意欲と生きがいにつながるよう支援したり、他の入居者も創作の喜びが共有できるさらなる取り組みを期待したい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の入居者の意向や天候を考慮して、散歩や買い物に出たり、近くの公園に夕涼みに出かけたりしている。地域の投票所へ選挙に出かける支援も行われている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけない支援が行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練はこれまでに1回実施しているが、夜間等の職員の少ない状況等を想定した訓練は行われていない。今後の取り組みとして地元の防犯クラブや女性消防クラブと合同で訓練することが確認できた。		災害時の避難誘導が安全に行われるためにも、今後消防署の指導を受けて定期的に訓練を実施することが望まれる。また、運営推進会議での協力要請、地域の防災体制と連携した災害対策が取られることを期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援</b>					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの身体状況に応じて食事が加減されており、摂取量も記録されている。献立も高齢者向けのメニューを参考に取り入れ栄養のバランスに配慮されている。		
<b>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民宿を改修し、間仕切りした内部は立て込んでおり、入居者の共用スペースである食堂兼居間も狭く、移動にスタッフの支援を必要とする入居者も見受けられた。また、トイレのビニールカーテンの目隠しは、プライバシーや衛生面でも適切とはいえない。		共有空間における家具類は必要最小限とし、ゆったり過ごせる配置や季節感ある小物で入居者の五感を刺激する工夫等が望まれる。また、トイレのドアの設置や異臭がこもらない換気の徹底等居心地に配慮した取り組みを求めたい。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたテレビが置かれていたり、入居者の使い勝手にベッドの枕元に好みの本や小物が積み重ねられている様子から、本人の居心地よい居室になっていることがうかがえた。		居室での過ごし方はベッドのみに偏らず、入居者・家族とも相談し、くつろげる椅子や畳を敷いたり、馴染みの品を飾ったりしてなお一層心地よい居室づくりに取り組まれることを期待したい。

■は、重点項目。

自己評価票

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b> <b>1 理念の共有</b>				
1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として笑顔・真心・感謝を掲げている		
2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は日常的にミーティング等でも運営理念を確認している		
3	家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議を開き家族や地域の方と2ヶ月に1度意見交換している		
<b>2 地域との支えあい</b>				
4	隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	住民の方達は自由に立ち寄ってくれるように行っております		
5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや行事には出席をするよう心がけております		
6	事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	高齢者が好むくらしを話し合い取り組んでいる		
<b>3 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価で指摘されたことは改善している		
8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を開きサービス向上に活かしている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村には常に行き来している		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	講習等には参加し、業務にいかしている		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料・勉強会などを開き防止に努めている		
<b>4 理念を実践するための体制</b>				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前には十分な説明をし、退所時も同様なことを行っている		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員会を設置し、苦情処理をできるようにしている		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月月末に生活だよりとして、近況報告をしています		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度運営推進会議を開き、意見交換を行っている		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングの中で話し合いをしている		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	常時職員が対応できるようにしている		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	極力職員の異動、離職はしないようにしている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場で働きながら学んでいます		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全職員が積極的に研修等に参加しています		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員相互の親睦に力をいれております		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	できるだけ希望を取り入れ、勤務作成をしている		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	日々の会話の中で、困っていること不安なことなどを聴いている		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時などで近況報告等を行っている		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族のその時々「声」を聞くようにしている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	担当スタッフ、ケアマネ本人等とカンファレンスを行い、話し合いをしている		
<b>2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	その人の考えなどを理解し、分かち合うようにしている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	双方の意見・考えを取り入れ関係をきづいている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の要望、家族の要望それぞれの意見を聞き、良い関係がきづけるようにしている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ビデオ鑑賞などで馴染みの場所の様子、又手紙などを出している		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日中はみんなで居間等ですごく良い関係をきづいている		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	要望があれば協力している		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>		<b>1 一人ひとりの把握</b>		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの要望等は聞き入れている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居間にはなじみの家具などをおき生活している		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝・夕バイタルを行い、心身状態を把握している		
<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成するさい、まわりの意見なども取り入れている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画期間に応じ、達成度などを考え次に活かしている		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々介護記録を記入し、介護計画に活かしている		
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族等には十分に話し合い、支援している		
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の機関には要望など伝えている		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他の事業者などとの意見を聞き、参考になっている		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議などには包括支援センターの方にも参加してもらい協働している		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院などの要望は聞き入れている		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医療機関と連携しながら行っている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	なじみの方から生活歴などを聞き支援に役立っている		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中も情報交換などをし連携している		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	終末期については家族の要望について早い段階から聞き、共有している		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	ちょっとした変化を見極め対応している		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	退所後も情報交換は行っている		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>		<p><b>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</b></p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	個人情報など外部にもれない処置を取っている		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	希望や要望は日々の話し合いから決めている		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	その日その日の体調に合わせ、希望も聞き支援している		
<p><b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b></p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	利用者の希望に応じスタッフが行っています		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	野菜の皮むきなど簡単な作業やおぼんふきなどの作業を行っている		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	一人ひとり希望を聞きながらできるはんいで取り入れている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意のある人はトイレ時、見守りをし介助者は時間を決め尿意の有無を確かめ、又夜はオムツ使用していても時間を見てトイレ誘導に心がけている		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日、時間は決まっているが希望により変更、入浴時一人一人のペースにあわせ体調を考えながら見守り		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の希望により休息、睡眠をとってもらっています		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力に応じ、本人がやりたい事をしてもらっている		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が所持しているお金は職員も把握しており、使用した際記録している		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、体調に合わせて買い物、散歩に出るようにしています		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	天気、体調に合わせて行事等を作り行っている		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば応じている		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会等は自由にできるようになっている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会などを開き竹に取り組んでいる		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみかぎをかけている		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に所在地は確認している		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	状態に応じて物品を置いている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	講習等に参加し、運営につなげている		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には行っていない		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練などを通し、地域の方にも協力を得ている		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	できる限りのことは事業所で行い、リスクを家族にはせおわせないようにしている		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援</b>				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝・夕バイタル測定を行い、変化を発見し記録呼びかけ行う		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	くすりのサマリを提示している		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の際は乳製品を使い、それでも続く際はくすりの使用		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	うがい、歯磨きなど行っています		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせ食事の量を決めている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	異変が起きたらすぐに主治医に報告している		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まとめて作るようなことはせず、一食分ずつ作り消毒なども行っている		
<b>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	いつでも見学ができるようにしています		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあわせかざりつけをしている		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間は共同で使っているが、居室は1人部屋である		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使いなれた家具を使う		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調節、換気には気をつけています		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止のため手すりなど設置している		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	できることは自分でやってもらっている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周りにはプランターを置いている		
項目番号	項目	<b>取り組みの成果</b> (該当する箇所を 印で囲むこと)		
<b>サービスの成果に関する項目</b>				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム越前では「真心」で「笑顔」で接し「感謝」の気持ちを忘れず、利用者の方と接しており、常に明るい気持ちでいれるよう話しかけ、その中から不安や不快な気持ちを読み取るようにしています